

Let's Know Hiroshima Castle.

しろうや！ 広島城



No.55

日本100名城の職員も100名城をすべて行ってみた♪

1 日本100名城とそのスタンプラリーについて

日本100名城（以下、100名城とします）とは、平成18年（2006）2月13日に公益財団法人日本城郭協会（以下、城郭協会とします）が選んだ全国の100城のことで、広島城もその一つです。翌平成19年（2007）6月2日からは、100名城をまわるスタンプラリーが始まりました。これは、100名城に選定された城郭にある専用のスタンプ（写真）を押してまわるというものです。全部そろえて城郭協会に申請すると、スタンプ帳に「登城完了」の認定印を押していただけます。平成30年（2018）2月の段階で、既に2,000人を超える方が認定を受けています。

今回は、100名城をすべて登城した私が、参加者と職員（学芸員）の両方の立場からその魅力を紹介してみたいと思います。



2 一人の参加者として、城の学芸員として感じる100名城の魅力

(1) 100名城の選定から見る魅力

城郭協会が選んだ100名城では、天守のある城はもちろん、一般的に城というイメージのない弥生時代の環濠集落も城ととらえています。更に、北海道にある、城と祭祀を兼ねたアイヌのチャシという城や沖縄のグスクという城も入っているなど、オリジナルな選定方法となっています。また、地域のバランスをとるために一都道府県最低一城、最大五城という基準を設けています（詳しくは、城郭協会のホームページや公式ガイドブックなどをご覧ください）。私個人としては、昔から旅好きであることや一応歴史を専門とする職業に就いているのに加え、仕事で他の城に行っていたこともあり、100名城選定時には、約60城は既に行ったことのある城でした。そうした私にとっても、改めて100の城をまわって見ると、それぞれの城が魅力的であり、各々の城の面白さ、奥深さを再発見することが出来ました。これまであまり城に接してこなかった方々にとっては、このスタンプラリーは城に興味を持つきっかけになるものと思います。

(2) 面白さを享受するためのコツ

全国の城をまわる面白さを知るためには、まず地元の城、例えば広島の方なら広島城・郡山城・福山城などをきちんとまわっておきましょう。そうすると、新しい城を訪れた時にそれぞれの城の特徴を理解することができます。もちろん行く前の事前学習など、その城の基本情報をきちんと認識し、縄張図なども持ちながら行くのが良いかもしれません。そして、城に関する博物館などの施設には必ず入り、現地での情報を増やすことも必要です。更に、建物だけでなく、石垣など残されている遺構をまわってみましょう。城の大きさにもよりますが、一つの城の見学には平均数時間はかかると思います。

もう少し付け加えると、城だけに行くのではなく、城下町など、その周囲も見てから城に入ると良いと思います。旧城下町の都市にある駅は比較的城から離れたところにあるので、城下町を通りながら城に向かうためにも、公共交通機関を利用するのがお勧めです。

3 一人の参加者としてスタンプを押してまわって

(1)スタンプを押す方法

私は、最初の7年くらいは、家族・友人との旅などの際に100名城に立ち寄っていました。そのうちに少しずつスタンプが増え、残り30城くらいになってから行ってない城に行きました。私のように、初めは行きやすいところからまわって最終的に残った城に行く方もいますし、一定の地域を一度にまわる方法を採用の方もいます。別に決まりはありませんが、どの場合でも「100のスタンプを押しに行く」ではなく、「100名城を見てまわった結果スタンプを押す」ことが望ましく、スタンプを集めることが目的になって、城を全く見ないことがないようにしてほしいと思います。

100個達成すると、記念品をいただけることがあります。私は、100城目の郡山城では、館長さんと博物館の職員さんに一緒に祝ってもらいました(写真)。ちなみに広島城では一緒にお祝いしますが、記念品はありません。



郡山城のスタンプのある安芸高田市歴史民俗博物館の中村計助館長から記念品を頂きました。

(2)スタンプを押すためには事前調査を

まわり方もですが、確実にスタンプを押すための事前調査はもっと重要です。多くの城では、スタンプを押せる日時が限られています。広島城でもそうですが、臨時休館や年末、年始の休みには特に気を付けましょう。また、開館前や閉館後は、スタンプを押すための時間外対応はしていません。私も他の城で閉館時間を見誤って、閉館ぎりぎりになって慌てたことがありますが、必ず事前の確認は重要だと思います。

広島城の場合は、スタンプの設置場所は1カ所ですが、入口が複数ある城や、山城などでは様々な場所にスタンプを置いている場合があります。しかも、置く場所が増えたり、季節や都合により場所が変更したりする場合もあるので気

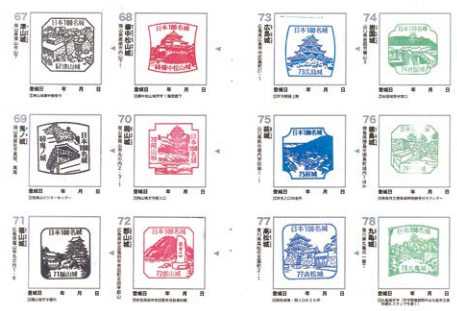
を付けましょう。それぞれの城によって、スタンプを押すためにはルールがあります。広島城の場合、建物の構造上の問題から天守内にスタンプを置いていますが、「前に入ったので、今日はスタンプを押すだけなのでタダで入館させてほしい。」と言う方などがいます。ルールの中で、スタンプを押してほしいと思います。

4 スタンプ受け入れ館の職員の立場として

広島城の場合、他の城でも事例があるように、混雑や雑な扱いを避けるために、スタンプ希望の要請があれば職員がスタンプを出すことにしています。広島城職員の多くは、自らもスタンプラリーにチャレンジしているので、参加者の立場も認識して対応しています。「せっかくなら綺麗に押ししてほしい」と、いつも願って対応しています。これまで10年間に亘ってスタンプラリーの参加者と接してきて、様々な人間模様を見て来ました。こちらが気持ち良くなるような対応事例もありますが、残念ながら正反対のものもあります。それらを踏まえて、スタンプを押す際のあるべき姿や秘訣を伝授?します。

(1)まずは専用のスタンプ帳を入手しましょう

スタンプラリーに参加するには、スタンプ帳が必要です。番号がある各城の枠に押していくスタイルになっている、専用のスタンプ帳にスタンプを押さないと城郭協会から認定されません。100名城のスタンプ帳は二種類ありますが(写真)、先に発売され、広島城でも取り扱っている「日本100名城公式ガイドブック/スタンプ帳つき」(左)がお勧めです。このスタンプ帳ですと、押し終えた時にスタンプが列ごとに4種類の色に分かれますので非常に綺麗に見えます(写真)。



左列から黒・赤・青・緑となっている。

(2) スタンプの依頼をする時には準備をしておきましょう

まず、100名城のスタンプが置いてある場所に行きましょう。城には、100名城専用のスタンプ以外のスタンプもあります。こういったスタンプを誤って専用スタンプ帳に押す場合がありますので、気を付けてください。スタンプの依頼があれば、広島城では速やかにご用意しますので、事前にスタンプ帳を用意しておいてください。依頼をしておいてから、時間を要してカバンの奥から出される方、夏場に汗だくでとてもすぐに押しそうにない方もいます。スタンプを押す際には、多くの方が並ぶ場合もあります。身も心も準備して臨みましょう。

(3) スタンプを押す前に・・・試し押しは必要です

スタンプにはインク浸透印(いわゆるシャチハタ式)のものと、スタンプ台にインクを付けるタイプのもがあります(広島城は前者です)。インク浸透印の場合は、インクを補充したタイミングによって濃淡が出てしまうことがあり、広島城でも苦慮しています。そこで、試し押しをしていただき、濃さを確認していただいてから押してください。やり慣れている方の中には、試し押し専用の用紙や別のスタンプ帳を用意されている方もいます。



(4) スタンプを押すときは・・・ゆっくり冷静に的確に

ここで最終確認です。スタンプを押すページの後ろに別の紙(城の入館券やリーフレットなど)を挟んでいると、微妙な段差のためスタンプのインクの一部が欠けてしまう場合があります。こうした事例は広島城でも時々見られます。広島城では捺印マットを用意しています。本などを台代わりに敷くのも良いと思います。

さていよいよ本番です。ゆっくり深呼吸をし

て、指定されている枠に合わせてスタンプを押しましょう。この時に、試し押しと同じ強さで押すように心がけましょう。それでも失敗することがあります。まさか!と思われるかもしれませんが、「スタンプを反対向きに押した」「別の城の枠に押した」「枠から大幅にはみ出た」などの事例もあります。その他、失敗に懲りたのか、押すまでになかなか決断ができず慎重になりすぎて他の方を待たせる方や、一人で複数のスタンプ帳に押す方などがあります。ご自分の分だけを押しようにしてほしいと思います。



押している様子。左は郡山城・右は広島城

(5) スタンプを押した後は・・・間に挟む紙があるとベター

押したスタンプのインクが、反対側のページについてしまう恐れがあるため、当館では間紙を用意しています。押し慣れている方の中には、最初から間紙専用の用紙や大き目の付箋を用意している方もいます。そして、対応職員に対してお礼の言葉をいただけるとうれしいですね。我々も時々、スタンプを押された方に、苦労話などを伺うことがありますが、楽しいひと時となります。

(6) スタンプ様々雑多話

スタンプ帳は、城をたくさんまわっていると傷んでくるし、濡れることもあるため、カバーを付けたり、専用の袋などに入れたりすると良いと思います。また、失敗以前のことで、スタンプ帳を忘れて来られる方が意外と多いです。自宅に忘れた、あるいは旅先の広島に持って来たのに、車内やコインロッカーに忘れたなどの事例です。広島城では、用意されていない方には別に白い紙を用意して押してもらいますが、城郭協会に100名城の認定をしてもらえない可能性がありますので、必ずスタンプ帳に直接押しをいただきたいと思います。ちなみにかく言う私も、大失敗があり、城を見るのに熱中してしまって、スタンプを押すのを忘れたことがあります(笑)。

5 10年間で変わったこと

100名城スタンプラリー開始当初はその認知度が低く、専用のスタンプ帳を持ってきてスタンプを押す方は少なかったのですが、年を追うごとに次第に増えていきました。広島城では、当初から公式ガイドブックをショップで取り扱っていたことから、今でも時々見られますが、購入してすぐ始める方が多くいます。スタンプラリーは城好きの方はもちろん、ご家族やご夫婦、あるいは子供さんなども楽しまれ、最近では外国の方や出張ついでのサラリーマンなども来城されます。本当に幅広く浸透したように感じます。広島城では、一番多い日で一日100人ほどがスタンプを押されます。もともと城の好きな方はいましたが、このスタンプラリーが行われたことによって本格的な城ブームが到来したように思います。スタンプラリーが始まった平成19年(2007)は、いわゆる団塊の世代が定年を迎える時期でもあり、この世代の方々の参加が多いようにも思います。また、この頃から歴史の好きな女性を「歴女」と呼ぶようになり、その後、城の好きな女性を「城ガール」と呼ぶ用語も定着しつつあります。このように城に詳しい方も増え、城の用語も普通に通用するようになりました。また、スタンプ収集のブームは、昨今の「御朱印ブーム」とも重なっており、広島城でも時々、御朱印と間違えて「押してください」と頼まれることがあります。更に最近では城、それも100名城を訪ねる旅行ツアーも出現しています。達成感があるので、スタンプラリーをきっかけに、これからも城の好きな方がますます増えていくのではないのでしょうか。

なお、広島城では、スタンプラリーが始まる前年の平成18年(2006)度には約14万人だった入館者が、現在2倍以上(約30万人)に増えています。スタンプラリーの影響だけではありませんが、スタンプラリーは100名城のある城の周辺の地域振興にも貢献しているのです。



100名城に選定された時に安芸高田市歴史民俗博物館には垂れ幕が設置された。

6 最後に

城郭協会では、平成22年(2010)にヨーロッパ100名城を選定し、すでに認定された方がいます。更に100名城が選定されて約10年後の平成29年(2017)、続100名城も選定され、今年4月からスタンプラリーも実施されます。今から始められる方は、100名城と続100名城の両方を一緒にチャレンジされてみてはいかがでしょうか。最後になりますが、私はスタンプ収集が目的ではないので、近くに城がある場合には出来るだけ他の城にも立ち寄るようにしてきました。その中には、今回続100名城に選ばれた城もあります。スタンプ収集は目標の一つにするとしても、スタンプラリーをして100名城、続100名城をまわった際には、せっかくの機会ですので、近くにある他の城にも足を延ばしてください。きっと新しい城の世界に出会えると思います。

(撮影協力：安芸高田市歴史民俗博物館 文：玉置和弘)



編集・発行

公益財団法人広島市文化財団
広島城

〒730-0011
広島市中区基町21-1
電話：082-221-7512
FAX：082-221-7519

平成30年3月20日発行

広島城利用案内

開館時間：9：00～18：00

(12月～2月は9：00～17：00)

入館の受付は閉館の30分前まで

観覧料：大人370円(280円) 中学生以下無料

高校生相当・シニア(65歳以上)180円(100円)

()内は30名以上の団体料金

休館日：12月29日～31日(臨時休館あり)

ホームページ <http://www.rijo-castle.jp>

「しろうや! 広島城」のバックナンバーは、広島城のホームページ (<http://www.rijo-castle.jp>) からダウンロードできます